

 シラバス参照

&lt;&lt;最終更新日：2016年03月04日&gt;&gt;

## 基本情報

時間割コード	F1795S	開講区分(開講学期)	2学期	曜日・時間	水4
開講科目名	日本語教育学特論 b (他指定)			教室	箕/E棟N教育実習室
開講科目名(英)	Special Seminar in Japanese Language Teaching			定員	
必修・選択				単位数	2
対象所属				年次	3,4年
担当教員	真嶋 潤子			開講言語	日本語

## 詳細情報

講義題目	日本語模擬教壇実習
授業の目的と概要	日本語の初級教科書を使用し、日本語教育における教室作業の基礎技術を学ぶ。
学習目標	日本語初級の授業に必要な指導技術を身につけることができる。
履修条件・受講条件	「日本語教育学演習a」を履修済みであることが望ましい。履修希望者が多数であるときは、人数制限を行うことがある。「日本語教育学概論」あるいは同等の内容の授業を履修済みであること。
特記事項	教壇実習担当者は、授業に使用するプリント等があれば、授業の前に受講者全員に配布できるようにコピーしておくこと。
授業形態	演習科目
授業外における学習	担当する教壇実習の教案を作成する。
教科書・教材	『みんなのにほんご』スリーエーネットワーク
参考文献	『日本語教師のための「授業力」を磨く30のテーマ』河野俊之、小河原義朗著 (2006)アルク 『日本語の教え方ABC-「どうやって教える?」にお答えします』寺田和子他著 (1998) アルク 『日本語教科書の落とし穴』新屋映子他著 (1999) アルク これ以外は、授業中に指示する。
成績評価	教壇実習、教案60%と授業への参加度40%を総合して評価する。
コメント	特になし。

## 授業担当教員

教員氏名	所属・職名・講座名	e-mail
------	-----------	--------

データがありません

## 授業計画

第1期「日本語教育学演習a」で学んだ基礎技術を応用して、初級レベルの授業を想定して、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。日本語教育の現場で教育実習をする前段階として、受講生全員がマイクロティーチングの形で日本語の模擬教壇実習を行い、お互いにコメントを加える。日本語初級文型の導入の仕方、さまざまな教室活動の工夫、効果的な授業運営のあり方などを学ぶ。教案の作成、検討、模擬教壇実習を行う。

第1回 オリエンテーション

第2回～第15回 模擬教壇実習（一日一課のペースで行う予定）